Oguchi Shakyo おおぐち社協だより

2021 7月号
第115号
年4回発行
(4月・7月・10月・1月)

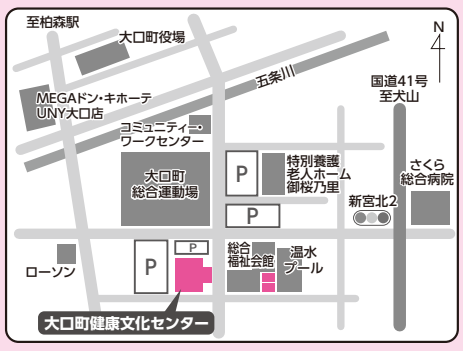
コロナ禍でも顔が見えるつながりを
さつきケ丘区ふれあいサロン元気会(さつきケ丘防災センター)

特 集
つながり続ける サロン
P.2〜5

CONTENTS

❷★特集　つながり続けるサロン
❸★ふれあいサロン連載コーナー⑥
　替地ふれあいサロン
❹★地域ふれあいサロン連絡会
❺★余野区サロンオープン　さろんボッチャ
❻★令和3年度事業計画
❽★評議員・理事・監事のご紹介
❾★令和3年度予算のあらまし／組織体制
❿★ボランティア情報局　夏休みボランティア出前講座
⓬★ぎゅっと　大口中(なか)保育園一時預かり事業
⓭★介護豆知識　摂食・嚥下(えんげ)
⓮★新型コロナワクチン接種おたすけサービス
★おもちゃの貸出／心配ごと相談所　女性相談
★「おたすけ隊」日記
⓯★(株)東海理化様 寄贈／民生委員・児童委員さん寄贈
★善意だより／米寿お祝い品贈呈／生活支援おたすけ隊サービス
⓰★点訳ボランティア養成講座　点字に触れてみませんか
★手話ボランティア養成講座　手話を始めてみませんか

社会福祉法人　**大口町社会福祉協議会**
事　務　局　月〜金(土日祝・年末年始休)8:30〜17:15
電話 **(0587)94-0060**　FAX(0587)94-0059
〒480-0126 大口町伝右一丁目35番地
大口町健康文化センター(ほほえみプラザ)2階
ホームページ　http://www.oguchi-shakyo.or.jp
E メ ー ル　chiikifukushi@oguchi-shakyo.or.jp



この広報誌は大口町社会福祉協議会の会費を活用してつくられています。

換気と消毒、人との距離を取っていきいき100歳体操
（豊田区どんぐりころころ）

間仕切り版を活用した感染予防対策
（さつきケ丘区元気会）

地域包括ケアシステムってこういうこと⑧
～人をつなぎ、孤立を防ぐ地域福祉～

特集　つながり続けるサロン

地域住民が気軽に集い、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ憩いの場、ふれあいサロン。

新型コロナウイルスの感染拡大により、こうした集いが以前のようにできなくなってから早1年以上がたちます。

地域の高齢者の中には、休止中のサロンスタッフに会うと、「ちっともやってちょーせん。」と嘆く方もあります。

参加者の思いに応えコロナ禍でのサロン

「なんとか開催して欲しい！」という高齢参加者のリクエストに応えるため、さつきケ丘区「元気会」では、自分たちでできる最大限の感染予防対策をして、第1金曜日と第3火曜日の月2回、さつきケ丘防災センターでサロン開催を続けています。

感染者数が増えてきたときには、消毒や換気だけでなく、フェイスシールド（顔カバー）と手袋を着用し、間仕切り版も活用。

直接の接触を防ぎつつ、みんなで元気に顔を合わせ、手作りゲームやクイズを楽しむ時間を分かち合っています。

スタッフの渡邊光子さんは、「楽しみにしている人が参加できるよう、工夫して続けたいです。」と話します。

豊田学共で、いきいき100歳体操を毎週金曜日に続けている豊田区「どんぐりころころ」のみなさんは、「家で体操をしようと思っても、なかなかできない。みんなと一緒だから続けられます。」と口をそろえます。

体操後の茶話会はできませんが、スタッフの大森ゆみ子さんが、短時間のお話し会を提案。医療用語や警察用語など、楽しく役立つ情報を紹介します。

顔が見えるつながりを

コロナ禍であっても、人に会える、顔が見えるつながりがあるからこそ、心と身体が元気でいられる。

会場が確保できるサロンでは、外出自粛や感染リスクの狭間で悩みながらも、参加者とスタッフのみなさんが一体となって感染予防対策に協力し、つながりの場を続けています。

ワクチン接種が進み感染拡大が収束し、安心して集える日をみなさん待っています。

ミニお話し会も距離を取って「ほお～おもしろいね！」
（豊田区どんぐりころころ）

参加者のみなさん「これもつけるんだね！」と
フェイスシールドを着用（さつきケ丘区元気会）

ふれあいサロン連載コーナー 第6回

秋田区 替地ふれあいサロン

日　時　第２日曜日ほか　9:00～12:00
場　所　替地集会場
参加費　100円（飲み物・お菓子付き）

生花で飾られた
お釈迦様の花御堂

平成28年４月にオープンした「替地ふれあいサロン」は、令和３年４月で５周年を迎えました。

サロン開設のきっかけは、平成28年に竣工した新しい替地集会場でした。

天神社の隣に、居心地のよい集会場が完成したので、「そこを活用して、サロン活動をしてみよう！」と地域住民が集まりました。

開催日は、自然と地域住民が天神社に集まる日曜日のゴミ収集日のほか、お釈迦様の生誕祭や弘法様の命日等、天神社の伝統行事に合わせることにしています。

４月８日は、お釈迦様の生誕を祝う「花まつり」が開催されました。

訪れた地域住民のみなさんは、今では珍しくなった生花の花御堂のお釈迦様像に、ひしゃくで甘茶をかけてお参り。スタッフは、感染予防対策を行いながら、交流スペースで甘茶をふるまいました。

この日は、若い世代の地区役員さんもスタッフに加わり、にぎやかなひとときに。

天神社を中心とした小地域の伝統的なつながりは、今も替地地区で大切にされています。

スタッフの安藤巖さんは、「サロンを地域の活性化に役立てたい。感染予防対策をしっかりして、みなさんの参加をお待ちしております。」と話しています。

花まつりの甘茶がふるまわれる交流スペース

天神社（左手前）と替地集会場（右奥）

替地集会場周辺MAP

替地ふれあいサロンのスタッフ・替地地区役員のみなさん
（写真撮影の間のみマスクを外しています）

地域ふれあいサロン連絡会

令和3年3月30日、健康文化センター1階多目的室で、地域ふれあいサロンの運営スタッフの連絡会を開催しました。

コロナ禍でサロン活動をどう継続するか、休止中のサロン活動をどう再開するか、今までの会場では再開できない場合の代替方法や、感染予防対策は十分か等をテーマに話し合いました。

令和2年度に1回以上開催したサロンは6か所、うち定期開催は4か所。**「少人数で、密にならないよう開催している。」「体調確認、使用した机や椅子の消毒など、役場に公共施設の感染予防対策を確認しながら開催している。」「短時間で、食べ物は持ち帰りにした。」**などの報告がありました。

休止中のサロンからは、**「サロンがなく寂しいと言われる。」「スタッフどうしのつながりも途切れてしまう。」「感染発生時の補償が心配だ。」**との声も。

社協からは、屋外で開催した例や、新たなつながりとなる見守りや声かけの例を紹介しました。

連絡会後には、「スタッフで話し合い、前向きに今後の活動を考えたい。」との声が多く聞かれました。

屋外で開催した例(フリースペースれんげそう)

外出自粛で、高齢者に影響

国立長寿医療研究センターの研究によると、

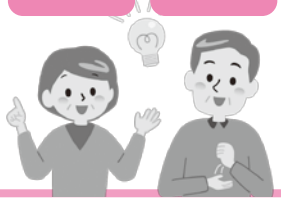
- 外出自粛等で、高齢者の身体活動が3割減少
- 孤立と閉じこもり傾向が重複すると、高齢者の死亡率は2割超に上がるとのデータもあるそうです。

新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえで「通いの場」を開催することで、高齢者の心身の健康確保を図ること、社会とのつながりをもつことが極めて重要と言われています。

サロン開催の工夫

感染予防対策を行いながら集いの場を開催する工夫として、厚生労働省や長寿医療研究センターからは、**「多人数の場合は、時間や人数を分散する」、「開催時間を短縮する」、「飲食物は持ち帰りにする」**などの留意点が示されており、町内のサロンでも実践されています。

分散開催　時間短縮　消毒換気　健康確認
持ち帰り　三密回避



※社協では、各サロンからの要望に応じ、消毒液やフェイスシールド、間仕切り板などの整備を支援しています。

NEWふれあいサロン
オープン情報

さろんボッチャ～余野流

余野でサロンオープン！ボッチャとサロンが融合　新たなサロンの形

余野区は、柏森駅が比較的近い好立地から、引っ越してくる方も多く、大口町内で最も世帯数が多い地域です。

そんな余野区では、他の地域でサロンが増えている話を聞いた老人クラブ「余野千歳会」の役員さんや有志メンバーが集まり、「余野でもサロンをやりたいけど、どう始めたらいいの?」と、令和元年頃から勉強を始め、社協もお手伝いしてきました。

その後、コロナ禍で足踏み状態となりましたが、令和2年には余野千歳会と子ども会がボッチャを楽しむ会を開催し、社協が支援。

令和3年4月、千歳会スタッフのアイデアで、感染予防対策を行い、ボッチャのできるサロンを立ち上げる運びとなりました。

パラリンピック公式種目のボッチャを「余野流」にアレンジしてみんなで楽しむサロンが、4月21日、余野学共でオープンし、総勢24名が参加しました。

「余野流」のルールはとてもシンプル。3人一組で赤ボールと青ボールのグループ分かれ、どちらが白いボールの一番近くまで投げられるかで勝負。

力加減が難しく遠くに飛んでいってしまったり、届かなかったり。

「よし!よし!とまれ!」、「あー、惜しい。」各チーム盛り上り、楽し気な声が聞こえてきました。

社協職員の障害者スポーツ指導員もサポートし、盛り上げました。

「コロナ禍でとじこもりがちで、人と会う機会が少なくなり、さらに運動不足になっている。だから、ボッチャで楽しく身体を動かしてもらいつつ、サロンでゆったりふれあえる場にしたい。」と、スタッフの泉原さんは話しています。

さろんボッチャ～余野流

日　　時　原則第2水曜日ほか(令和3年8月・9月はお休み)
※開催月により、第2以外の水曜日も開催
13:30～15:00
場　　所　余野学共　2階　集会室
参　　加　余野区の方ならどなたでも自由参加・毎回も可
問合せ先　社会福祉協議会　94−0060

令和3年度事業計画

～人をつなぎ、孤立を防ぐ地域福祉活動～

基本方針

新型コロナウィルス感染拡大の影響が長期化し、人同士の接触やコミュニケーションが制限された結果、地域住民等による福祉活動やボランティア活動は休止や延期等活動の自粛を余儀なくされ、昨年度の本会事業についても、代替や中止せざるを得ないものもありました。

人と人、人と地域がつながり、「ふだんのくらしのしあわせ」を感じながら生活する日常が失われ、誰もが生きづらさを感じる今だからこそ、わたしたちは、感染症に向き合いながらも実行できる「地域ふくし活動」を考えていかなければなりません。

本会が、地域住民、ボランティア、民生委員児童委員、NPO等関係諸団体とともに進めてきた「地域ふくし活動」は、これまでのつながりを途切れさせない活動の工夫だけでなく、新たなつながりの形を生み出すことが求められています。

さらに、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けて、各市町村において支え合いの地域づくりと伴走型の個別支援を一体的に進める「包括的な支援体制」の構築が求められています。

このような状況において、本会では、感染予防対策に最大限の配慮をしつつ、住民主体の福祉活動・ボランティア活動の再開に向けた留意点を示し、支え合いの地域づくりの再活性化と新たなつながりづくりを支援します。

また、地域福祉部門と在宅福祉部門がワンチームで地域福祉推進に取り組むことができる本会の強みを活かしながら、他機関との連携や地域資源を積極的に活用し、専門職による個別支援や介護サービスを一層充実できる体制を整えます。

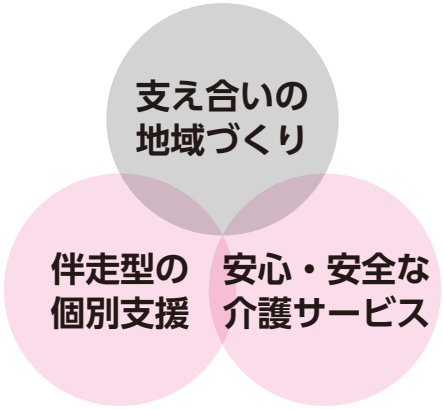
今年度も、支え合いの地域づくり、伴走型の個別支援、災害への備え、介護サービスの柱を中心に、人をつなぎ孤立を防ぐ「地域ふくし活動」の推進に努めます。

重点取組５つの柱

ワンチームの地域福祉推進

- 安心・安全な介護サービスの提供
- 平常時の災害への備え
- 「伴走型の個別支援」の充実
- 「支え合いの地域づくり」の推進
- 法人運営の基盤強化

社協の特色



大口社協は、「支え合いの地域づくり」と、福祉専門職による「伴走型の個別支援」、ヘルパー・デイサービス等の在宅介護サービスをひとつの法人の中で一体的に取り組むことができるところが、大きな特色です。

「支え合いの地域づくり」の推進

『大口町総合計画』において、地域福祉は健康で安心な暮らしの基本施策のひとつとして位置づけられており、福祉教育の充実、社会福祉協議会の強化、担い手の発掘・育成、ふれあいサロン等の小地域福祉活動の促進、地域住民による見守りや生活を支える活動の推進等があげられています。

地域住民やボランティア、民生委員児童委員等のみなさまの参加を得ながら、「支え合いの地域づくり」に向け、それぞれの地区の地域性に合わせて取り組みを推進します。

平常時の災害への備え

近年、地震だけでなく身近な台風、豪雨等による災害が相次いでおり、各地の市町村社協が災害ボランティアセンターを開設し、災害時のボランティア活動をコーディネートしています。

ボランティアや行政と連携して災害ボランティアセンター設置運営訓練と人材育成に努め、災害用備品の整備等の備えを進めます。

「伴走型の個別支援」の充実

さまざまな生活課題や日常生活の困りごとを抱えるすべての世帯を対象として、専門職が幅広く相談を受け、必要に応じ食料支援や資金貸付、福祉サービス利用援助、金銭管理、介護サービス、就労支援等、多様な課題解決策を用いて支援します。

安心・安全な介護サービスの提供

ご利用者の健康と命の安全を守り、くらしを支える介護専門職として、制度の狭間で困難な生活課題を抱える人も含め、安心して利用できるサービスの提供とその質の向上に努めます。あわせて、地域への介護情報の発信や介護予防体操等の出前等、介護予防普及啓発事業を推進します。

法人運営の基盤強化

評議員会・理事会を中心とした社協組織全体でのチェック体制の強化に努め、財務状況や事業内容の積極的な公表等とあわせて、事業運営の透明性の確保を推進します。

また、社協会員の拡大により地域福祉事業の自主財源確保に努めるとともに、職員の人材確保と資質向上、コミュニティソーシャルワーカーの職員配置を推進し、法人運営及び事業実施の体制整備に努めます。

※新型コロナウイルス感染予防のため、密集する行事の中止・縮小等、事業の一部代替を行う場合があります。

大口町社会福祉協議会　評議員・理事・監事のご紹介

大口社協は、地域のみなさまの幅広い意見を取り入れながら、公共性・透明性の高い事業を実施するため、住民代表や団体代表等の方々の参加により、評議員会・理事会を組織しています。

評議員選任・解任委員会において新たな評議員、評議員会及び理事会において、新たな理事・監事、会長・副会長として下記の方々が選任されましたのでご紹介します。
（令和3年6月末現在　順不同、敬称略）

令和2年度第2回評議員会の様子（令和3年3月）

●理事（11名）

選　出　区　分	氏　名
区域における福祉に関する実情に通じている者	長谷川　実
	大森　　明
区域において社会福祉事業を経営する団体の役職員	佐野　　新
	宮崎　　亮
ボランティア活動を行う団体の代表者	川橋　朝次
地縁組織（自治組織など）代表	舟橋　新介
福祉関係団体	宮地　弘信
	安藤　　巖
社会福祉事業の経営に関する識見を有する者	社本　一裕
	田中　義郎
	宇野　千春

（※）令和3年6月7日の評議員会において選任

●会長・副会長・常務理事（各1名）

役　職　名	氏　名
会　　長	社本　一裕
副 会 長	安藤　　巖
常務理事	宇野　千春

（※）令和3年6月7日の理事会において選任

●監事（2名）

選　出　区　分	氏　名
財務管理に識見を有する者	渡邊　弘和
社会福祉事業に識見を有する者	前田　和久

●評議員（33名）

選　出　区　分	氏　名		選　出　区　分	氏　名	
社会福祉事業や学校等のその他公益事業の経営者	田中　一輝	鈴木　洋子	地縁組織（自紙組織などの代表者）	社本　盛治	宮地　清敬
地域の福祉関係者（民生委員・児童委員）	松岡　徳雄	中西　房子		前田　親利	納堂　基宏
	宮地　里美	河合知加子		近藤　雅春	藤川　富之
	松坂志づ子	近藤　義文		廣瀬　英孝	伊澤　　清
	津田三枝子	奥村　正義		武田　静雄	渡邉　孝雄
	水野　幹子	西村　武司		加藤　憲司	社本　元治
	五十嵐　進			井戸　雅晴	藤川　優孝
地域の経済団体が適切なものとして推薦する者	宮川　周司	酒井　　孝		近藤　喜昭	瀬川　行男
区域内において社会福祉事業を経営する団体の役職員	西尾　洋司		ボランティア活動を行う団体の代表者	遠山　豊子	

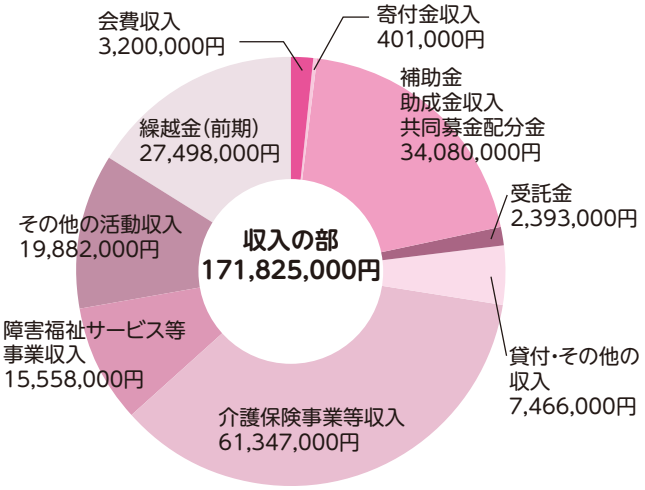
（※）令和3年5月21日の評議員選任・解任委員会において選任

令和3年度　大口町社会福祉協議会　予算のあらまし

予算総額171,825,000円

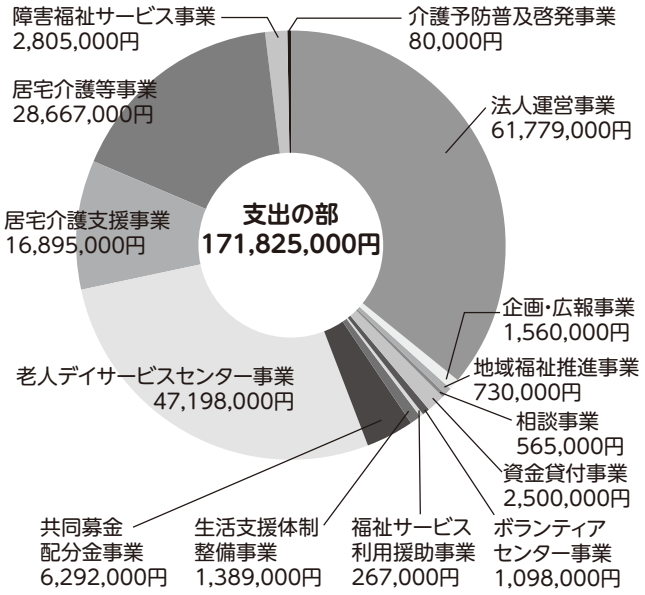
●収入の部

項　目	金額(単位:円)
会費収入	3,200,000
寄付金収入	401,000
補助金/助成金収入/共同募金配分金	34,080,000
受託金	2,393,000
貸付・その他の収入	7,466,000
介護保険事業等収入	61,347,000
障害福祉サービス等事業収入	15,558,000
その他の活動収入	19,882,000
繰越金(前期)	27,498,000
収入合計	171,825,000



●支出の部

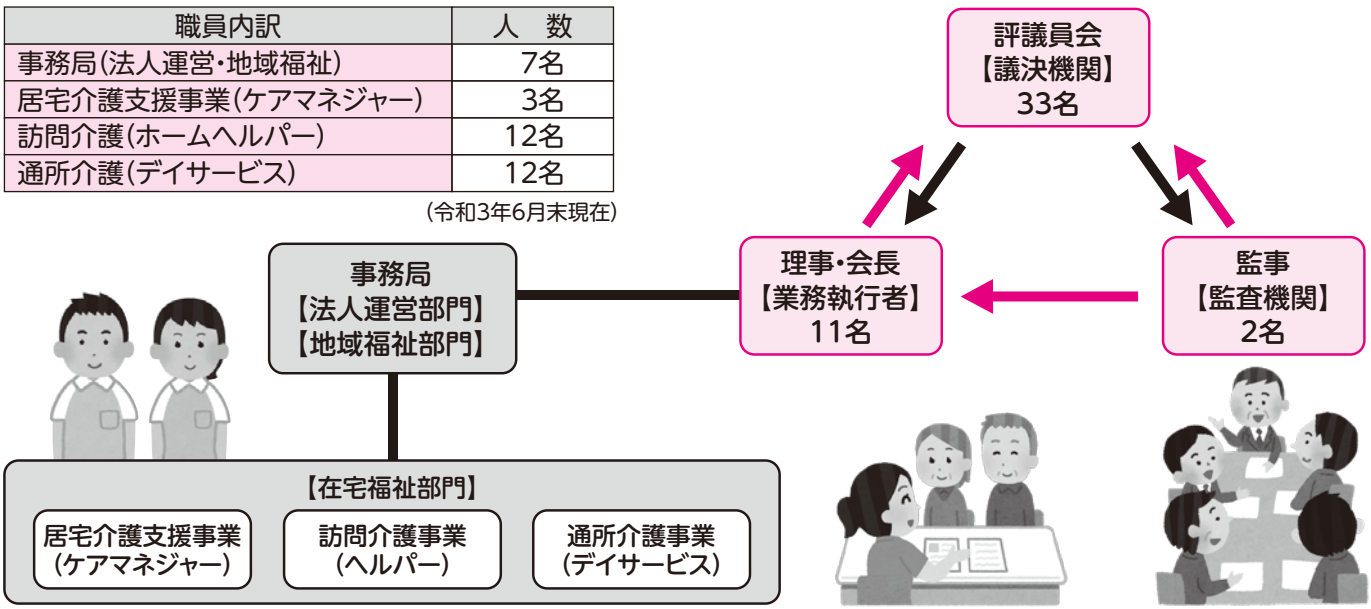
項　目	金額(単位:円)
法人運営事業	61,779,000
企画・広報事業	1,560,000
地域福祉推進事業	730,000
相談事業	565,000
資金貸付事業	2,500,000
ボランティアセンター事業	1,098,000
福祉サービス利用援助事業	267,000
生活支援体制整備事業	1,389,000
共同募金配分金事業	6,292,000
老人デイサービスセンター事業	47,198,000
居宅介護支援事業	16,895,000
居宅介護等事業	28,667,000
障害福祉サービス事業	2,805,000
介護予防普及啓発事業	80,000
支出合計	171,825,000



大口町社会福祉協議会　組織体制

職員内訳	人　数
事務局(法人運営・地域福祉)	7名
居宅介護支援事業(ケアマネジャー)	3名
訪問介護(ホームヘルパー)	12名
通所介護(デイサービス)	12名

(令和3年6月末現在)



ボランティア情報局

夏休みボランティア出前講座

☆今年で9年目を迎えます～☆

場　所	日　時	実施サークル・内容など (詳しくはサークル紹介で)
南児童センター ☎95-3528	8月4日(水) 10:00～11:30	**レクリエーションボランティア ここね** 心も体も温まるレクリエーションやゲームをみんなで楽しみます。
	8月5日(木) 10:00～11:30	**傾聴ボランティアだんぼ** 聴くことや聴いてもらうことの体験をします。
西児童センター ☎96-0481	8月4日(水) 10:00～11:30	**手話サークル コスモス** 簡単な手話や、ジェスチャーを使ったクイズやゲームなどをします。
	8月5日(木) 10:00～11:30	**高齢者疑似体験 うさぎとかめ** お年寄りが日常生活でどのようなことで不自由さを感じているのかを体験します。
北児童センター ☎95-7141	8月20日(金) 10:00～11:30	**災害救援ボランティア** 「楽しく学べる防災」を体験します。

ボランティア出前講座の目的と参加対象は～？

目的は、簡単で楽しい体験をとおしてボランティア活動への関心を深めてもらうことと、より多くの子どもたちへ福祉教育を推進していくことです。参加対象は、地域住民どなたでもOKです。

連絡先：ボランティア連絡協議会　☎0587-94-0060

みなさんのカレンダーにも、書いておいてくださいね。

レクリエーションボランティア ここね

いつもの活動

・「ここね」「心も体も温まるのよ」と言っていただけるようなレクリエーションボランティアを目指しています。
・大口町内のつどいの場での出前レクリエーションを行っています。
・合唱や手遊びなどサークルメンバーが得意なことを活かしたレクリエーションを行います。
・(サークルの抱負)「参加する子どもたちが無理なく楽しんで(笑顔を大切に)行えればと思います」

過去の出前講座の様子

出前講座では～

子ども向けのレクリエーションやゲームでみなさんと楽しみましょう。

今年の出前講座は私たちのサークルです～

写真は一昨年前の活動の様子です。
今年は、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮して活動しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。
（感染拡大の状況により、中止する場合があります）

傾聴ボランティアだんぼ

いつもの活動

傾聴サロンスタッフ

- コミュニケーション・スキルを習得しながら豊かな関係つくりをめざし、活動しています。
- 傾聴サロンの運営。
- 御桜乃里への訪問し、傾聴活動。

出前講座では～

話を聴いてもらう心地よさを子どもたちに味わってもらいます。紙芝居や手品などのお楽しみもありますよ!

手話サークル コスモス

いつもの活動

福祉実践教室の様子

- 小中学校から依頼があれば、総合学習（福祉実践教室）の講師として活動しています。
- 聴覚障がい者と手話を通じて情報交換し、交流をしています。
- 手話の必要性を社会に伝えていく活動もしています。

出前講座では～

自己紹介や簡単なあいさつや歌などを手話で表現してみましょう。ジェスチャーで、カードに描いてある絵を伝えたり、身近なものを表したりしてみましょう。どれだけ、人に伝えられるかの体験ができます。

災害救援ボランティア

いつもの活動

過去の出前講座の様子

- はそりを使った炊き出しや、災害ボランティアセンターの立ち上げなどの訓練をおこなっています。
- 防災に関する各種研修・講座（避難所運営ゲーム（HUG）、災害図上訓練（DIG））への参加や、講師活動、実施協力などで活動しています。
- 東日本大震災復興支援ボランティア活動に参加、その後も町内でおこなわれている被災地支援活動（支援物資の袋詰め等）に参加しています。

出前講座では～

子どもたちが「楽しく学べる防災」の企画を考えています。お楽しみに!

高齢者疑似体験うさぎとかめ

いつもの活動

福祉実践教室の様子

- 疑似体験用装具をつけて、お年寄りが日常生活でどのような不自由さを感じているのかを体験し、お年寄りの気持ちやコミュニケーションの取り方を学んでいます。
- 大口町内の小学校、尾北看護学校、その他依頼のある学校などで活動しています。

出前講座では～

- 手袋をはめたまま、ファスナーの上げ下げ、ボタンかけ、落ちたカードを拾ったり、おはしで豆をつかんだりして、指先の不自由さを体験します。
- 足や手につける装具を紹介します。

大口子育て情報

ぎゅっと

【編集】大口町NPO登録団体
「まみーぽけっと」
【HP】http://www.geocities.jp/
mammypocket2003/

大口中(なか)保育園一時預かり事業について

児童の保護者の就労形態の多様化に伴う一時的な保育、保護者の傷病等による緊急時の保育および保護者の育児疲れ疲れ解消等の私的な理由による保育に対応するため、就学前児童の一時預かり事業を実施し、児童福祉の増進を図ります。

☆内　　容　**(1)特定保育**

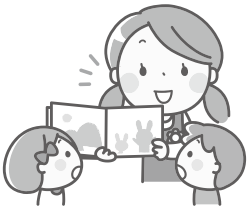
保護者の就労形態により、家庭における保育が週3日程度で継続的に保育が困難となる児童に対する保育

(2)緊急保育

保護者の傷病又は冠婚葬祭等により、緊急かつ一時的に保育を必要とする児童に対する保育

(3)育児リフレッシュ保育

保護者の育児等に伴う心理的または肉体的負担を解消する等の私的な理由により、一時的に保育が必要となる児童に対する保育



☆対　　象　町内の満1歳から就学前児童

☆場　　所　大口中保育園

☆人　　数　1日当たり5人以内

☆日　　時　週3回程度とし、1か月につき14日まで

☆料　　金

児童区分	利　用　料			給食費
	1時間当たり	4時間	8時間	
満1・2歳児	600円	2,000円	3,000円	200円
3歳児以上	500円	1,500円	2,500円	200円

☆申込方法　原則として利用日の前月1日から1週間前まで

☆申込場所　大口中保育園　☎95-2862

コロナ、コロナで、もう一年半が過ぎようとしています。
子育て中のママ、パパにとっては大変な日々でした。
外出もままならず、元気いっぱいの子どもたちのパワーをどうやって発散させたらいいの?
在宅勤務のときには子どもはどうしたらいいの?
大口町では、中保育園での一時預かりの他に「すくすくサポート」もありますよ。参考にしてください。
早く以前のような生活に戻れることを祈りながら、この暑い夏を乗り切りましょう!

毎日の食事は、ご高齢者にとっても大きな楽しみのひとつですね。
高齢になると、色々な原因で、食べ物を上手に飲み込めなくなったりします。
今回は、ご高齢者が安全に食事を楽しむための、摂食・嚥下(えんげ)にまつわる豆知識をご紹介します。

嚥下(えんげ)とは?

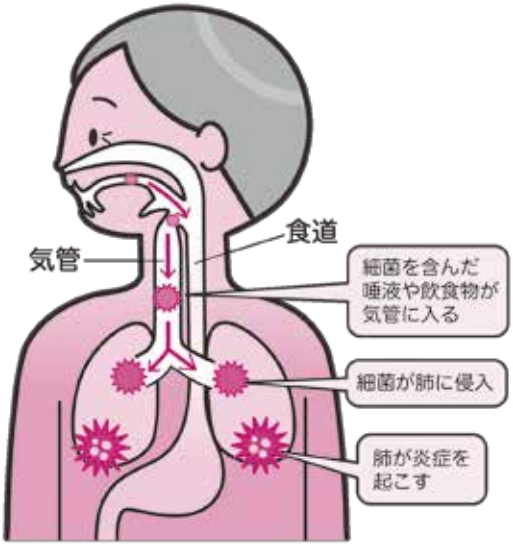
食べ物を口に入れ、噛み砕いてからゴクンと飲み込み、食道を通って胃の中に行くまでの過程のことです。

高齢になると、嚥下の流れの機能のどこかが弱り、食べ物が飲み込みにくく低栄養状態になったり、食べ物が誤って気管に入ってしまう誤嚥(ごえん)が起こりやすくなったりします。

誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)とは?

細菌を含んだ唾液や食べ物などが誤って気管に入ってしまうことで、引き起こされる肺炎のこと。**年間約4万人(※)もの方が、誤嚥性肺炎が原因で亡くなっています。**

誤嚥性肺炎のしくみ



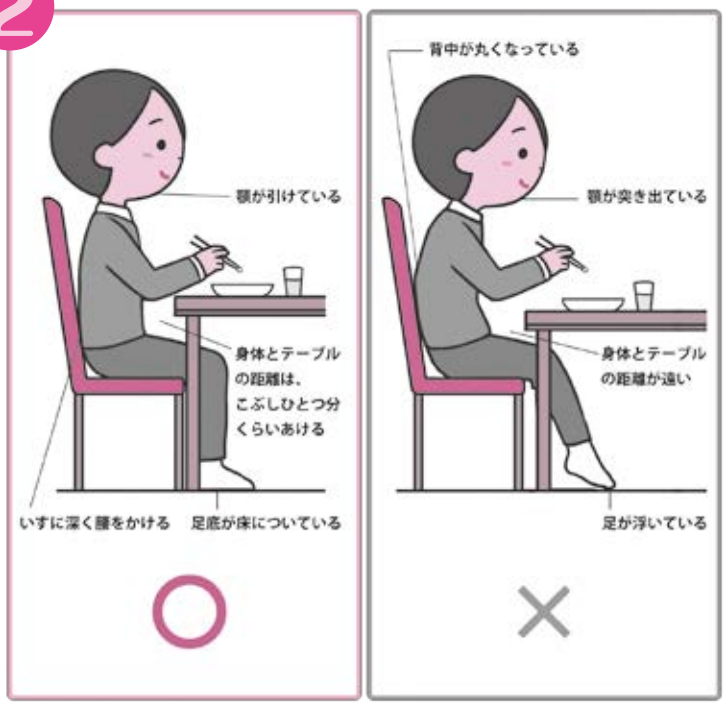
(※)出典:厚生労働省「令和元年(2019)人口動態統計月報年計(概数)」

嚥下(えんげ)の機能を補うポイント

ポイント1 食事前の嚥下トレーニング 口や喉の筋肉を鍛える発声練習「パタカラ体操」

「パ、パ、パ、タ、タ、タ、カ、カ、カ、ラ、ラ、ラ」を5回、「パタカラ、パタカラ、パタカラ」を5回繰り返します。毎日3回、食事前に行うとよい準備になります。

ポイント2 飲み込みがしやすいよう、正しい姿勢で食べる



ポイント3

その人の飲み込みの状態に合わせて、やわらかく噛みやすい食事、とろみを付けて飲み込みやすくした食事、一口大に切った食事などに変更することも大切です。必要に応じて、医師や管理栄養士など専門家に相談して、指導を受けましょう。

【お問い合わせ先】 大口町社会福祉協議会 TEL 94-0060 FAX 94-0059

心配ごと相談所

女性相談とは、女性が直面するさまざまな悩みをともに受け止め、解決のための一歩を踏み出す応援をする相談です。

こんなときご相談ください。ひとりでなやまないで!

★家族の暴力(身体的・精神的・経済的な暴力を含む)で悩んでいるとき
★家庭内の不和やいざこざで困っているとき
★職場や近隣での人間関係に悩んでいるとき
★自分らしい生き方を見つけたいとき
★その他、人に言えない悩みがあるとき…など

・相談は、すべて無料です。
・安心してご相談ください。秘密は固く守ります。
・女性の相談員がお話をお聴きします。
・必要に応じて、関係機関と連携しながら支援します。

愛知県女性相談センター尾張駐在室の女性相談員が、下記のとおり社協の心配ごと相談所に出張して相談を行います。面談のほか、電話相談もできます。

内容 / 月	母子自立支援相談 女性相談 10:00～15:30	女性相談 10:00～15:30	高齢者・障がい者の弁護士相談 13:30～16:30
7月	7日(水)	21日(水)	28日(水)
8月	4日(水)	18日(水)	25日(水)
9月	1日(水)	15日(水)	22日(水)

※弁護士相談は事前予約制。その他の相談は予約優先です。

予約・問合せ先 社会福祉協議会
電話 94-0060　FAX 94-0059

新型コロナワクチン接種 無料 おたすけサービス

ワクチンの予約や接種会場までの移動にお困りではありませんか?

高齢や障がいなどで、親族等に予約を手伝ってもらうことができない方、公的サービス・公共交通機関やタクシー等での移動が困難な方を対象に、社協職員がサポートします。

①ワクチン接種の予約支援

社協職員がご自宅を訪問し、接種の予約を支援します。

②ワクチン接種会場までの送迎

社協職員が運転ボランティアとともにご自宅を訪問し、社協の車でご自宅と接種会場間の送迎を行います。

問合せ・申し込み先 社会福祉協議会
電話 94-0060　FAX 94-0059

おもちゃの貸出やってます

大口おもちゃ図書館さくら

おもちゃの消毒、感染予防対策を行いながら貸し出します。親子で楽しいおもちゃを選びに来てください!

1日15組限定
毎月　第2土曜日・第3木曜日　10時～12時
問合せ先 社会福祉協議会　電話 94-0060

しゃきょうの生活支援「おたすけ隊」日記

3月31日

今回は、ホースの金具がゆるんで、水漏れが起きて困っている方のお宅で、取付をし直しました。おたすけ隊は、地域への恩返しだと思ってやっていますよ。
(おたすけ隊協力会員M)

5月7日

免許を返納して、毛布や布団をコインランドリー・クリーニングに出しに行けなくなった方の代わりに、車でお手伝いをしました。
自分もいつ人にたすけてもらうかわかりません。困ったときのたすけあい、喜んでいただけてよかったです。
(おたすけ隊協力会員K)

株式会社東海理化 様

車いす2台を社会福祉協議会へ寄贈

4月28日、株式会社東海理化様が、自走式車いす2台を社会福祉協議会へ寄贈し、健康文化センター1階多目的室で贈呈式が行われました。

株式会社東海理化　取締役　西田経営管理本部長（右）は、「弊社は長年にわたり地域貢献に取り組んでおり、これからも積極的に行いたい。車いすは、ぜひ高齢者など地域の方々への支援に活用して欲しい。」と挨拶されました。

民生委員・児童委員さん

手作りぞうきんと除菌ティッシュ施設へ寄贈

「民生委員・児童委員の日」の5月12日、民生委員・児童委員のみなさんが、手作りぞうきんと除菌ウェットティッシュを町内の高齢者施設や保育園などへ寄贈しました。

新型コロナウイルス感染予防対策に役立ててもらおうと、掃除用のぞうきんは、民生委員・児童委員のみなさんが手作りしたもの。携帯用の除菌ウェットティッシュは、社協も協賛させていただきました。

善意だより

秋田さわやかクラブ 様

社会福祉に役立ててほしいと、大口町社会福祉協議会にあたたかい寄付・寄贈が寄せられました。厚くお礼申し上げますとともにご報告します。

順不同（3月15日～5月31日 取扱い分）

マザックボランティアクラブ 様	6,666円
秋田さわやかクラブ 様	10,000円
匿名希望	100,000円
匿名希望	10,000円（フードバンク事業へ）
（株）東海理化 様	自走式車いす2台
大口町民生委員児童委員協議会 様	手作りぞうきん、除菌ウエットティッシュ（大口社協デイサービスへ）

88歳・米寿の方 お祝い品を贈呈中

社協では、満88歳の米寿を迎えられる在宅の高齢者の方を対象に、ご自宅を訪問し、敬老のお祝い品と絵手紙、メッセージカードを贈呈しています。

【赤い羽根共同募金が活用されています】

生活支援 おたすけ隊サービス

20分 200円～（1回最大80分まで）

ひとり暮らしや他に手伝ってくれる家族がいない高齢者・障がい者・病気の方などを対象に、地域住民の協力会員が、掃除、電球交換、ゴミ捨てなど、かんたんなくらしの家事をお手伝いします。

困りごとをお気軽にご相談ください。

社会福祉協議会 電話 94-0060

募集 点訳ボランティア養成講座

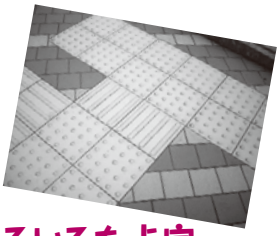
点字に触れてみませんか

まちなかで点字を見つけて、「どう読むんだろう?」と思ったことはありませんか?

誰でもやさしく始められる入門講座です。専門の講師が、読み方や書き方を丁寧にわかりやすくお教えします。ご興味のある方、ぜひご参加ください。

開催日	主な内容
9月７日(火)	視覚障がい者の状況、まちなかの点字、点字の歴史など
9月14日(火)	基本の仮名遣い、単語を書く、数字とアルファベットなど
9月21日(火)	簡単な文章を書く、基本的な分かち書きなど

- 時　間　午後1時30分から3時30分まで
- 場　所　健康文化センター 2階 ボランティア室
- 対象者　大口町内・町外を問わず募集
- 参加費　500円(テキスト代を含む)
- 講　師　名古屋市身体障害者福祉連合会 近藤 和美 氏
- 協　力　ボランティア登録団体 点訳フレンド



まちなかのいろいろな点字

点訳ボランティアって?

点字の学びを活かして、広報などの読み物を点字に訳して目の不自由な人にお届けしたり、小学校の授業で点字の文化を子どもたちに伝えたりして、社会貢献を行っているボランティアです。

募集 手話ボランティア養成講座

手話を始めてみませんか

「手話に興味はあるけど、何から始めればいいのかわからない。」「手話って難しそうだし…できるかな?」など、いろいろと不安な気持ちをお持ちの方へ。

初心者の方にやさしくお教えします。この機会に手話を始めてみませんか!

- 日　時　10月7日(木)から12月9日(木) 午前10時から正午まで　**全10回講座**
- 場　所　健康文化センター 4階 ほほえみ2ほか
- 対象者　大口町にお住まいか、お勤めの方 それ以外の方は要相談
- 定　員　10名(感染予防対策のため)
- 参加費　500円(テキスト代を含む)
- 講　師　大口町手話サークル　玉置 より 氏
- 協　力　大口町手話サークル

手話ボランティアって?

大口町手話サークルは、手話を身近に学べる場として、毎週木曜日にろう者(手話を使う聞こえない方)とともに勉強会を行っています。小学校や児童センターで子どもたちに手話を教えたり、町内の行事で手話通訳を務めたりして、手話を楽しみながら広げる活動に取り組んでいるボランティアです。

■申込み　点訳ボランティア養成講座、手話ボランティア養成講座　同時申込受付(先着順)
令和3年7月1日(木)午前9時から
窓口・電話は平日午前9時から午後5時(土日祝を除く)　FAXでも受け付けます

■申込先　**社会福祉協議会**　電話94-0060　FAX94-0059